

令和6年度第2回中津川市公共交通会議 議事要旨

日時 令和7年1月15日(水) 13:30～15:30

場所 中津川市役所4階 大会議室

出席者 委員22名(うち代理出席7名)、事務局4名

■開会

■会長あいさつ(今井副市長)

■意見交換

■報告

報告1 カーシェアリングの実証実験結果について(観光課)

- ・報告1について説明(観光課)

【質疑・意見等】

○福本委員(学識経験者)

- ・この155回に対して1回いくらの公費がかかっていたのか、国の事業とはいえ、市としても握っていただきたい。
- ・この取り組みが、市の公共交通ネットワークにおいてどういう位置づけなのか明確にしないと、続けられない。続けられないにしても、理由が必要。検証していただきたい。

報告2 秋季シャトルバス運行及びフリーパスの造成事業結果について(観光課)

- ・報告2について説明(観光課)

【質疑・意見等】

○福本委員(学識経験者)

- ・事業費は全体でいくらか。
⇒全体で450万円。
- ・11人の利用なので、1人あたり約40万円の費用が掛かったことになる。これは市のコミュニティバスと比較しても高額になる。
- ・こういった取り組み自体は否定しない。事業を育てていくつもりなら、最初は利用者が少なくても、腰を据えて育てていくんだという気持ちが必要。
- ・CentXは東海地方の名鉄沿線の人以外はターゲットになり得ない。東海地方の名鉄沿線に住む方々に訴求するPRをしないと、利用に繋がらない。外国人の方をターゲットにするなら、海外の人が良く見るようなサイトに掲載をするべき。また、Googlemapの検索からチケットにリンクする等の改善をする余地がある。
- ・逆に11の方がどうやって情報を入手したのか整理しておく必要がある。
- ・満足度が高いのは、交通手段ではなく、観光地の満足度が高いという可能性もある。切り分けて分析すべき。
- ・既存のバスを使う観光商品があるといい。北海道の十勝バスでは既存の路線を使い、乗車券と目的地の割引券等をセットにした観光商品を扱い、ヒットしている。これは既存路線を利用しているので、新たに費用が掛かっていない。

報告 3 付知地区における自動運転実証実験結果について（次世代交通研究室）

- ・報告 3 について説明（次世代交通研究室）

【質疑・意見等】

○福本委員（学識経験者）

- ・この実績やアンケートで判断するのは困難。この利用者 1 人 1 人に対しておそらく高額な費用がかかっていると思うが、実際にバスやタクシー事業者が収入等で困っている中市でも考え直す必要があると思う。
- ・自動運転は一度事故を起こし休止したはずだが、そこはどうなったのか。
- ・アンケートについて、日常的にバスを使いたいかと聞けば、全員が使いたいと答える。しかし現実には使わない。アンケートだけではなく、膝を突き合わせて話し合わないといけないこともある。

○次世代交通研究室

- ・地域の協議会を今後開くので、しっかりと協議していく。
- ・事故については、今回は接触事故。走行ルート上に車両があったことが要因。手動介入の遅れも要因の一つ。（公財）交通事故総合分析センターの調査も受けており、安全性の向上に向けて調査すると聞いている。

報告 4 北恵那バス馬籠線（中切経由）の運行再開について（定住推進課）

- ・報告 4 について説明（事務局）

【質疑・意見等】

○意見なし。

報告 5 長野県木曾地域からの中津川市民病院直行バスの運行について（定住推進課）

- ・報告 5 について説明（事務局）

【質疑・意見等】

○意見なし。

報告 6 「大集合！はたらくのりもの広場」の報告について（定住推進課）

- ・報告 6 について説明（事務局）

【質疑・意見等】

○福本委員（岐阜県公共交通課）

- ・大切なイベントだと思うので、続けてほしい。
- ・単に車を置くだけでも子供は集まるが、他の自治体では、謎解きを作っているところもある。バスの中につり革や、ボタンは何個あるか等、簡単な謎解き。そういったミッションを与えると、頑張ってもらえる。

報告7 令和6年度事業【中間報告】について（定住推進課）

- ・報告7について説明（事務局）

【質疑・意見等】

○福本委員（学識経験者）

- ・最終報告の段階には、どういう効果があったのか、どういう理由でこうなったのかという考察を追加してほしい。

報告8 中津川市地域公共交通計画の改定スケジュールの共有について（定住推進課）

- ・報告8について説明（事務局）

【質疑・意見等】

○意見なし。

報告9 路線バス（乗合バス）の上限運賃変更認可申請について（北恵那交通(株)）

○成瀬委員（北恵那交通(株)）から説明

- ・給料改善、安全への設備投資のため、運賃改定を行う。
- ・平成7年に運賃改定して以来、改定をしていない。これまでに消費税改定は2回あったが、そのタイミングでも運賃改定はしていない。
- ・詳細は国の認可後に、HP等でご報告する。初乗り180円を200円にし、実施運賃は平均14%程の改定を見込んでいる。
- ・物価高騰の中の運賃改定は市民の方々も思うところがあるかもしれないが、採用確保、待遇改善等のためにご理解いただきたい。

【質疑・意見等】

○吉村委員（付知高校通学バス保護者会）

- ・定期券も一律に14%改定するのか。
- ・先日久しぶりに北恵那バスを利用したが、高校通学当時と比べてもあまり上がっていない。運賃は安いに越したことはないが、公共交通の維持存続のためにも、保護者会でも理解を促していきたい。

○成瀬委員（北恵那交通(株)）

- ・改定率は平均。付知、加子母から中津川等、遠方は値上げの幅を抑える。
- ・各地区の保護者会にも改めて説明に伺う。

○福本委員（学識経験者）

- ・個人的には運賃は上げれば良いと思う。14%の値上げだが、通常30年ぶりの改定なら14%ではすまない。倍ぐらいの値上げになると思う。
- ・遠方の方々には負担が大きいが、市も通学定期の補助をしている。
- ・地方では、路線バス利用者の大半を占める学生の通学定期の割引を事業者負担で割引したら、負担が大きい。
- ・市によって、「高校生に定住してほしいから、運賃は市が負担します」とか、「高校生に住んでもらわなくてもいいから、割引は市ではしない」とかあってもいい。学生だけではなく、一般

の運賃についても同様。郊外に住んで欲しいから遠方は安くするとか、一律料金にするとか、そういった政策があってもいい。

- ・公共交通を維持するため、収入（運賃）について、利用者、行政、市民はそれぞれの程度負担するのかという議論が必要。
- ・馬籠線は多くの観光客が乗ってくれる。もっと運賃をとって、地域住民が乗る路線に還元するとかあってもいい。来年度以降、市の計画改定等のタイミングで議論できるといい。

■議題

議題 1 地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について

- ・議題 1 について説明（事務局）

【質疑・意見等】

○福本委員（学識経験者）

- ・3 ページの神坂地区コミュニティバスの事例のところに、北恵那バスの迂回運行の事由を記載すべき。5 ページの表について、比較対象の年度が違うなら、注釈を入れるべきだし、比較対象の年度はどちらも基準年度（2021 年度）に合わしてもいいと思う。

⇒事務局にて修正し、提出する。

【採決】 承認

■議事終了

■その他

■閉会